



Figure 3 2006 年度以降の相談回数

増加した。

その結果、2006 年度以降の学生相談室の利用者数は、Figure 2 のように順に増加しており、学生相談室での相談件数も、Figure 3 のように増加することとなった。

以上のように、学生相談室に関しては、少し配

慮をしたり、情報交換の場を設けることで、大きな成果が得られることが既に示された。今後は、医療機関との連携や、緊急ケースの対応など、より相談内容に即した問題点を整理し、検討していく必要があると考えられる。

文 献

斎藤憲司・中金洋子・香川克・堀田香織 1996 学生相談の活動領域とその焦点 —— アメリカの大学におけるサポート・システムとの対比から —— 学生相談研究, 17, 1, 46-60.

謝 辞

学生相談室利用に関するアンケートにおいては、実施、集計に際し、江戸川大学スポーツビジネス研究所専任講師鈴木秀生先生、学生相談室主任カウンセラー日浅美由紀先生に多大なるご尽力を賜りました。ここに記してお礼申し上げます。